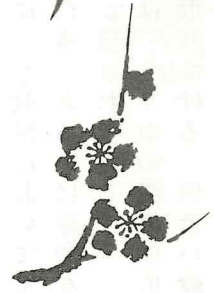


仙台司教区 教区事務所だより



(第 15 号)
昭和 53 年 3 月 1 日

人事異動 (邦人司祭)

去る1月30日に開かれた邦人司祭1月月例会の席上、佐藤司教から次のような人事の異動が発表された。今回の異動は、昨年的人事異動に引き続き、今後の、教区の司牧宣教計画の完成を目指す布石の一環として行われるものである。

- 昭和53年4月1日付(敬称略)
- 斎藤石雄 任 豊屋町教会主任
- 児山六七男 任 塩町教会主任
- 佐藤守也 任 一関教会助任
- 今野東志男 任 命社会福祉法人カトリック児童福祉会本部付
- 首藤正義 任 元寺小路教会第一助任
- 笹気直哉 任 元寺小路教会第二助任
- 渡辺彰宏 任 塩町教会助任

司祭評議会

教区司祭団評議員交代

司祭評議員の任期は来る3月31日で満了するが、教区邦人司祭団は、2月20日の月例会で次期評議員を選出した。向こう2年間の教区司祭団を代表する評議員は次の2師である。

- 斎藤石雄師
- 深沢豊治師

仙台教区司祭評議会は、第二バチカン公会議教令・教皇自発教令に基づき、教区長によって教区長の諮問機関として設置された。そして全司祭が、教区長と共に共同責任を果たすために、教区の全司祭の意思の疎通をはかりながら、教区として必要

な種々の事柄について検討し、具体的な方策を探求して教区長の教区統治を補佐するものである。

☆ ☆ 聖地 献金日

設定さる

仙台司教区では、今後毎年、聖金曜日に、聖金曜日(の式が行われる教会、聖堂におけるその日の、又は式中の献金を聖地献金として、バチカン大使を通じて東方教会聖省に送ることが決められた。

この献金は、去る52年11月に行われた司教会議において、各司教に要請されたことに応えたものである。東方教会聖省長官フィリップ枢機卿のバチカン大使にあてた書簡によると、この献金は、初代教会のころ、使徒聖パウロと聖バルナバとが、エルサレムの信徒を援けるために行った募金に端を発し、歴代教皇により支持、奨励された全世界を対象としたものであったが、地方によってはいつの間にかすたれてしまったものである。しかし現在、宗教上、政治

上、経済上、複雑な困難の下にある少数派の聖地のキリスト者の命脈を保つために、この献金は必要であり、特に、私達の信仰の揺らんである聖地の信仰の灯を消さないためにも、又、与えられた信仰の恵みに応えるためにも、聖地のキリスト者を援けることは、私達の当然の義務でもあると、枢機卿は強調している。

たとえその金額はわずかなものであったとしても、生きたキリストの肢体の一部、私達に信仰を伝えた初代教会の信徒の子孫達を援けるために、応分の協力をしたいものである。

献金の名称 聖地特別献金

献金の日 毎年聖金曜日

献金の目的 聖地維持、並びに、エルサレム教会の司牧事業、又愛徳、教育、社会諸事業の援助のため。

献金の実施 聖金曜日の式が行われる教会、又は聖堂において当日、又は式中行われる献金を、聖地特別献金とする。

送金方法

小教区等↓教区事務所↓パチカ
ン大使↓東方教会聖省

“ 広報の日 ”

復活第六主日に変更

(今年は4月30日)

広報の日は、従来御昇天の祝日に実施されていたが、広報委員会は昨年11月の司教会議の了承を得て、本年から復活第六主日に実施されることになった。今年は4月30日である。広報の日の一般目的は、信者及び一般の人々にマス・コミの重要性について認識を深めさせると共に、マス・コミにかかわる各自の責任を思い起こさせることである。

教皇庁広報委員会は、教皇の認可を得て、年毎に広報の日のテーマを掲げているが、今年のテーマは、「マス・コミに対する期待と権利と義務」である。

広報の日、またはその前後の適当な時期に、小教区においても何らかの形で行事、あるいは運動を実施することが望まれている。

例えば、ミサ中の説教に広報のテーマを取りあげる。信者一般又は各団体に呼びかけて座談会などを催す。

展示会やカトリック出版物の普及運動を行う。広報献金を呼びかける等。

金祝



スール・ジャネット・デリスル

(無原罪聖母会)

本教区における無原罪聖母会の先駆者の一人、スール・ジャネット・デリスルは今年、修道生活50周年を迎える。この金祝を祝って来るる月5日、郡山教会で感謝のミサが行われる。

略歴

一九〇七年アメリカに生まれる。

一九二八年9月8日初誓願。

一九二九年奄美大島の名瀬へ。フランススコ会経営の大島女学校に奉職。

一九三〇年修道院設立のため仙台教区の郡山にくる。7年間英語の個人グループプレッスン。

一九三六年シナの広東へ。

一九五八年日本にもどり、ザベリオ小・中学校で英語を教え、かたわら課外に、父兄、高校生、勤め人に英会話を教え、現在に至る。(71歳)

司教様の日程

(2月15日現在)

- 3月11日 海外出張から帰仙。
- 13日 司祭評議会
- 15日 社会福祉法人理事会
- 17日 スペルマン病院理事会
- 23日 聖香油のミサ(聖木曜日)
- 26日 復活祭ミサ
- 29日 ドミニコ会来日50周年記念式典(東京)

献堂式



岩手カトリックセンター
5月21日に決まる

岩手県における司牧・宣教活動の母体となるセンターが、その建設も予定通り着々と進行し、人々の前にその姿を現わしつつある。

そんな中で、去る1月25日開かれた建設委員会で、献堂式などの日程が次のように決まった。

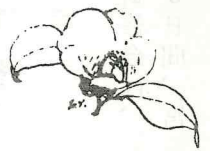
献堂式 5月21日

市民公開 (講演会、演奏会、展示

会) 6月11日ごろ。

人事

往来



- ※ 浜尾文郎司教(東京教区)
- 1月16日仙台教区カテキスタ研修会のため来仙。18日離仙。
- ※ 安井光雄師
- 1月30日邦人司祭月例会のために来仙。
- ※ 松村晋和師(中央協議会)
- 2月1日カリタス・ジャパンの集まりのため来仙。
- ※ 井上洋治師(東京教区)
- 2月5日、6日、実践神学タークングのため来仙。
- ※ 沢田和夫師(東京教区)
- 2月5日、6日、塩釜教会黙想会。
- 2月18日、19日、東仙台教会黙想会指導のため来仙。
- ※ 小林博師(イエズス・マリアの聖心会)と3カップル
- 2月10日、12日、盛岡でのマリッジエンカウンターのため来仙。
- ※ 佐々木博師
- 2月11日、12日、福島県カトリック

の集いのリーダー錬成会のため来仙。
※ 三浦平三師

2月20日邦人司祭月例会のため来仙。

《青年・姉妹の集い》紹介

「青年姉妹会」

(塩釜教会)

塩釜教会には、それはそれは楽しい青年姉妹会があります。

下は高校生から上は30歳未満の青年姉妹まで、なぜか既婚者も含めて幅広く皆さんはりきっております。

ソフトボール大会、スキー大会、少しはじめに聖歌練習、再びもどって他教会青姉会との交流会、歓迎会に送別会ともっばら遊ぶことのみ多く、これからは多少なりとも勉強会もしなければならぬのでは、との反省も出る程によく遊ぶ青年姉妹会ではあります。

月例会は毎月第3日曜日と決められています。日曜日だけではあきたりず、毎月第3金曜日の夜に、時間のゆるす人達が(高校生は除く)自分たちの時間を作り、話し合いや

勉強会をしようと思集まっており、これからは互いの日常生活の中で、どうでもよい部分ではなく、なくてはならない部分で強いつながりを持つこと、つまりそれを日常生活の基盤に出来るような集まりの場にして行きたいと、理想はあくまでも高いのであります。

ご来塩の折は是非遊びにお立ち寄り下さい。どなた様でも大歓迎致します?!

ちなみに、20人前後の青年姉妹のうち1/3人がいつも出入りしています。

「福音宣教」の講習会

「開かれた教会」を

目指して

岩手県下の司祭・信徒・カテキスタ18名が集まって、2月13日～14日、松倉温泉で福音宣教の講習会が開かれた。

ツiegel師の指導のもとで、パウロ六世の「福音宣教」をテキストに、教皇の呼びかけに対して岩手地区で

はどのように応えていくことができるか、が話し合われた。

土着化の問題がクローズアップされた。どのようにしたら教会は開かれたものになるか。教会はどうして敷居が高いと人々に感じられるのか。行事に追われて大切なものが失われているのではないか。などの問題が日本の具体的な習慣を踏まえつつ話しあわれた。

この講習会は問題提起という形で終わったが、参加者それぞれが感じ受けとめたことを各教会に持ち帰り、教会で先ず実際に生きてみることを約し、そして秋にその成果を持ち寄って、今度はベトレヘム会の司祭と共に考えようということに散会した。すでに、信徒と共に何かをしようと思はじめているカテキスタもあるとのこと……。

仙台教区



カテキスタ研修会・総会

仙台教区のカテキスタ研修会は、1月16日から18日までの3日間、宮

城県鳴子町にある公立教員共済組合宿泊施設「玉造荘」で開催された。

講師は浜尾文郎司教（東京教区）で、仙台教区のひとつのカテキスタが集まり、「現代の教会はカテキスタに何を求めているか」というテーマのもとに熱心な討議が交わされた。

第1日は浜尾司教の講話で、福音宣教に関する教皇パウロ六世の使徒的勧告を用い、「人は誰でもキリストを知る権利があり、教会はまさにキリストを人々に知らせるために存在している。福音宣教の働き手としてつかわされているカテキスタの任務は重く、使命を十分に認識しなければならぬ」との話があった。

第2日は、第一線で働いているカテキスタ達がその現状や経験から現代の教会において、カテキスタはどうあらねばならないか、又、どうあるべきかを全員で話し合った。

短期間で、この重大なテーマの結論は出しえなかったが、全員がこの研修を通じて、現代の教会におけるカテキスタの責任の重要さをあらためて認識し、それぞれの持ち場へ帰って行った。

研修会の最後の日には、仙台教区カテキスタ会の総会が開かれ、役員選挙の結果、次の通り決定された。

会長 阿部輝雄氏（一関教会）

副会長 横尾重信氏（湯本教会）

書記・会計 池野てる子氏（北上教会）

監事 新松義男氏（青森・本町）

なお、仙台教区カテキスタ会は、

教区長である佐藤司教直轄のもとにその指導を受け、組織され運営されるものであることも確認された。

新刊紹介

イタリア教理司教委員会編
女子パウロ会訳

子どものための要理

「神さまといっしょ」



日々新しい心で、子どもたちと共に聖書をひもとき、共に祈り、生活の中からたえず学び、神を体験してゆこうという姿勢で幣まれた新しい要理書。

定価 800円
〒 160円

プロテスタントと

カトリックの



※エキュメニカルな対話

去る2月5日～6日、松島仙松閣において、実践神学研究タークングが開かれた。

これは、カトリックとプロテスタントの教職信徒のエキュメニカルな対話と交わりの会で、約30名が集まった。

今回のテーマは「日本人への福音」ということで、東京教区司祭・井上洋治師が講師として招かれた。ちなみに、同師は「日本人とイエスの顔」（北洋社）を著わしている。

「福島県カトリックの集い」

のための

リーダー錬成会開催さる

去る2月11日～12日の2日間、桜の聖母短期大学のあかしや館を会場に、福島県カトリックの集いのためのリーダー錬成会が開かれた。

カトリック福島連絡協議会の主催

で、福島県下のほとんどの教会からリーダー格の人々、現状の教会に積極的に働きかけようとしている人々40数名が参加した。

講師として佐々木博師（仙台教区司祭・日本宣教司牧センター所長）が迎えられ、パウロ六世の「福音宣教」を中心に講話が進められた。

同師は、キリスト者が真に生かされるために、キリストのいのちを生きる3本の柱、祈り・みことば・いのちのパン（行伝2・42）の必要性を強調した。この交わりのうちに生きる共同体が教会であり、キリスト者はことばと行い（生活）によって、キリスト者としてのあかしを社会の中でしていかなばならない。

2日間の錬成会は講話・質問・話し合いの連続で、多少強行なプログラムではあったが、分科会では各教会の諸問題が話し合われた。特に、教会における若者減少の反省がなされ、どのようにしたら若者の魅力ある教会となるか、教会は行事に追いまわされることなく、教会にしか出来ないことをすべきではないか、信仰と生活とのかかわり等が話された。

しかし、講話との関連での掘り下げた話し合いが少なかったこと、参加者に対し、又参加者同士のチャレンジが少なかつたことは、短い期間のためとはいえ残念なことであった。

この錬成会で得たもの、不足だったものを補いつつ、9月1日の信徒のつどいに向けて、これからの準備を各教会ですすめていくことを約し、ミサ聖祭をもって散会した。

文化講演会

ご案内

● 講師と演題

三浦朱門―「愛」

曾野綾子―「今日に生きる聖書」

● とき

3月30日(木) 午後6時30分開演

● ところ

仙台市民会館大ホール

● 入場無料(整理券が必要)

● 問い合わせ先

仙台YBU文化センター

0222-1615341

● 主催 主婦の友社、石川文化事業団

仙台YBU文化センター

● 後援 河北新報社



2・11 信教・思想の自由を守る

宮城県民集会

去る2月11日、宮城県水産会館において、靖国神社国家管理反対宮城県連絡会議(40団体加盟)主催による2・11信教・思想の自由を守る宮城県民集会が開催された。

三〇〇名程の県民が集う中で、事務局より経過報告がなされ、上智大学教授相沢久氏による「靖国神社国家維持問題と天皇制」と題する講演ののち宣言文の決議がなされた。このとき、カトリック正義と平和仙台協議会から緊急動議が出され、「東京国立劇場で行われた建国記念の日奉祝運営委員会主催の祝賀行事に、政府が総理府後援の名義使用を認めたとに対し、厳重な抗議を行う」という主旨の抗議文が採択され、デモ行進に移った。

今年の集会の特色は、カトリック正義と平和仙台協議会の参加と若人の参加者が多かったことである。

※ ※ ※

【編集後記】

生まれたばかりの赤ちゃんに向かって、「お前のその顔、なんとかならないか」と言う人がいるとしたらどうだろうか。赤ちゃんはどんな気持ちだろうか。

母親のはぐくみ育てようとする愛情があつてこそ赤ちゃんはすくすく育つ。母親から忘れ去られた赤ちゃんはなんと不幸なことか。

出会う人ごとに「事務所だより」の協力を依頼している。「名称がちょっとかたいのではうんぬん：」とアドバイスしてくれるお方がいる。「お前のその顔なんとかならないか」と言われるようで、つらい……

あの母親の心が、「事務所だより」を成長させるはず。子を思う父の訓練もほしいが、まずは、日々のパン(ニュース等の協力)を?!

.....

仙台司教区事務所だより第15号

昭和五十三年三月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222-4371